



骨董コンピュータの祭典

6月中旬、夏休みに入っすぐの日曜日にスタンフォード大学の一角で Concours D'Elegance¹⁾ というクラシックカーのイベントが行われる。これは地元のロータリークラブが主催するもので、出品される車はすべて個人が自分のコレクションを持ち寄ったものである。入場料(10ドル)を払って中に入ると、芝生の上に車が並んでいる。中には1912年製フォードT型という超レアものもあるが、ほとんどは1960年代から70年代にかけて販売された「古きよきアメリカ」を象徴する車ばかりである。車の傍らにオーナーが座っていて、話しかければその車の自慢話を聞かせてくれるし、場合によってはドアやエンジンルームを開けて見せてくれる。最後に審査があって部門別のチャンピオンが選ばれる。コンクールとはいえ、青空の下で車好きが集まってワイワイ楽しむ牧歌的なイベントである。

車は車で楽しいのだが、シリコンバレーにはコンピュータのイベントもある。その名も Vintage Computer Festival (VCF)²⁾。Concours D'Elegance と同じく、コレクターが古いコンピュータを持ち寄って自慢するイベントである。1997年以來毎年秋に開かれており(9.11テロの年は中止)、2003年10月に第6回(VCF6.0)がコンピュータ歴史博物館³⁾の2階で開かれた。ビンテージ(Vintage)は元々ワインの醸造年を表す単語で、ナパやソノマなど有名なワイン畑が近くにあるシリコンバレーらしい命名である。とはいってもパーソナルコンピュータの歴史はそれほど古くはなく、ほとんどが1980年前後の代物である。それでも出展者の情熱は熱く、同じ時代を共有した者にはそれが伝わってくる。以下いくつか紹介するので、同じ世代の人は感慨にふけっていただきたい。

この業界では Apple, Commodore, TRS, Atari が人気コレクションアイテムとなる。中でも Apple は今でも根強いファンに支えられている。Mac ユーザには「Windows マシンなんか使わない」というプライドがあるのだが、VCF にマシンを出品する連中には風格すら感じられる。出展されるのは iMAC でも SE でもなく「Pre-MAC」、つまり Macintosh が出る前の Apple 製品が多い。モノクロの Apple-II (1977年発売、以下同じ) やカラーになった Apple-II C (1979) が多いが、ビジネス的には売れなかった Apple-III (1980) や Lisa (1983) も展示されてい

た。Apple-I はさすがにない。実はこの会が行われたコンピュータ歴史博物館には1台展示されているのだが、ネットオークションでもめったに出ないお宝というところらしい。

Commodore は Apple と違って後継機が途絶えてしまったのだが、こちらにもファンが多い。初代 PET2001 (1977) が展示されていた。今ではお目にかかれぬオールインワンモデル(キーボードもディスプレイも1つの筐体に入ったもの)で、キーボードと同じくらいの大きさを占めるカセットテープドライブが時代を感じさせる。その横では別の PET でパックマンが動いている。Commodore は PET の後継機種 C64 (1981) が家庭用テレビに接続できるようになり、一般家庭に普及した。製品寿命が長く、1つのモデルが売り上げた台数(3,000万)はギネスブックに載っているそうだ。この C64 も多数展示されていた。VCF の Web ページには C64 をネットワークでつなげてスーパーコンピュータを実現しようという、本気なのか冗談なのか分からないプロジェクトが載っていた。今回の VCF6.0 で大々的に披露される予定であったが、実現はしなかったようだ。

IBM コーナーにあったのは、Display Writer (1980)、5100 Portable Computer (1975、文字通り携帯型でノート PC のパイオニア的なマシン)、System/23 Data Master (1981) といったマシンである。いずれも 8086 に CP/M が搭載され、8インチ FDD がついている。IBM が 8086 と MS-DOS を採用したいわゆる「IBM-PC」を売り出すのは1981年であるが、その前の製品は「Pre-PC」と呼ばれている。どちらかというとも IBM マシンはビジネス向けだが、これはこれでマニアがいて時々 eBay のオークションで売買されるそうだ。

XEROX Star (1981) は Alto から継承される由緒正しい



図-1 展示されていた PET2001

ヒューレット・パカード研究所

湯浅 敬 kei.yuasa@hp.com



アメリカITまわりの話題

ウィンドウシステムを搭載したコンピュータである。別室の一角に Star を数台並べ、GUI やらグラフィクスアルゴリズムのパネルを並べて力の入った展示であった。しかし準備ができたと思ったら内輪の人(昔のユーザ会か?)が集まってケーキやビールでパーティを始めてしまったため、展示どころではなくなってしまった。

DEC コーナーはさらに気合が入っていた。PDP-11(1975年頃)はそもそもパーソナルとはいえない機械で、冷蔵庫くらいの大きさがある。それを3台も持ち込んでBSD UNIXを稼働させていた。前のテーブルに並んでいるのはVT-100やDEC Writer-3といった往年の名端末である。実は筆者も大学時代にこの2つの端末を使っていた(本体はPDPではなくVAXであったが)ので触ってみたが、VT-100の重いキーストロークは当時のままであった。

スーパーコンピュータのCRAY2(1985)も歴史に残るコンピュータであるが、さすがにこれを個人で所有したり動かすことはできない。しかし何とこのCRAY2からボードやICを取り出して、パネルにはめて売っている人がいた。もちろん、廃品のCRAY2を正規に入手しているらしい。中国系アメリカ人の社長はそのことを強調するため取材された新聞や雑誌を並べているのだが、何やらどこかの遺跡で盗掘してきた財宝を売っているという風情で面白かった。CRAYともなるとピラミッドと呼ぶにふさわしい。

他にも昔のプログラム電卓が山積みになっていたり、WangやSinclareなどマイナーなコンピュータもたくさんあった。トミーのぴゅう太というゲームマシンを展示している人もいた。また別室ではコンピュータ関連書籍の古本市があったり、昔のプログラミングのセミナーがあったりしてなかなかの盛況ぶりであった。コンピュータが展示されているだけでなく、出展者自ら操作したりプログラムを書いて見せたりするのが、このイベントのすごいところである。ちなみに当日入り口で売られていたTシャツにはNerdとGeekと書かれていた。前者はオタク、後者は訳すのが難しいのだが社交よりもコンピュータに没頭するのが好きな人のことである。

ビンテージコンピュータのベースにはシリコンバレーの「ガレージ文化」があるように思う。アメリカの家に



図-2 会場風景

はたいてい車庫(ガレージ)があるが、天気の良いカリフォルニアでは車は外に置きっぱなしにして、空いたガレージは古い家具などを置く物置になる。そして引越しをするときには家具でも古着でもガレージセールで売り出す。大量生産大量消費というイメージが強いアメリカ社会だが、意外にもものを捨てずに大事にしている。古いコンピュータもガレージセールでの掘り出しものから価値が認識されたのではないかと想像できる。HPやAppleといった会社はガレージでの機械いじりから生まれた、というのが「ガレージ伝説」である。こうした偉人伝ばかりではなく、ビンテージコンピュータというサブカルチャーもガレージから生まれたのである。

ワインや車と違い、コンピュータは歴史が浅いが急激な進歩を遂げた。「ムーアの法則」以降のコンピュータは年に何度もモデルチェンジされるようになった。今や自分が使っているコンピュータの型番すらよく覚えていない。消耗品のように消費される今のコンピュータは、将来骨董品として残ることはないだろう。現存するApple-IIやC64といった骨董品を個人のコレクションに頼っていると、いずれビンテージコンピュータ自体がなくなってしまう恐れがある。そこできちんとした形で保存しようとする人もいる。VCFを運営するSellam Ismail氏は同好の人を集める一方で、VintageTech⁴⁾という会社を作り倉庫を借りてコレクションを保存している。また今回会場となったコンピュータ歴史博物館もそのような意図で基金が集められて設立されたものである。

著者もコンピュータ歴史博物館を見たことがあるが、古いコンピュータを組織的に集めるのは貴重なことであると思う。しかし、ここで陳列されるコンピュータはいわば標本である。電源を入れ、プログラムを動かしてこそ古いコンピュータも生き返る。そのためのソフトウェアや操作方法を語り継げるのは、博物館よりもVCFに出品してくるNerdたちなのである。博物館が集めることも大切だが、草の根的な活動も不可欠であろう。

VCFは2000年にヨーロッパ、2002年にアメリカ東海岸でも始まったが、アジアではまだない。日本にはNECのPC-8001、シャープのMZ80、任天堂のファミコン、MSXなど歴史に残るコンピュータがある。Webで検索すると個人で収集している人はいるようだが、ビンテージコンピュータの価値を再認識するためにも一堂に会してイベントを開いてみてはいかがだろうか? VCF Asiaは日本、それも秋葉原で開催するのが最適だと思うのだが。

関連 URL

- 1) Concours D'Elegance: <http://www.paconcour.com/>
- 2) Vintage Computer Festival: <http://www.vintage.org/>
- 3) コンピュータ歴史博物館: <http://www.computerhistory.org/>
- 4) VintageTech: <http://www.vintagetech.com/>

(平成 15 年 11 月 17 日受付)